

◆地域課題やニーズ把握の必要性

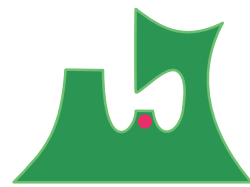
公民館の効果的な活用に向けて、公民館職員をはじめ社会教育関係者は、地域の問題と住民の要望を話し合える機会を積極的に設定する役割等が期待されています。

そして公民館職員等が、地域課題・ニーズ分析をし、それに基づいた学習プログラムの立案、学習活

動等を通じた住民の組織化支援、地域の教育資源を結びつけるコーディネート等を実施することが必要です。

このことによって、地域住民が主体的に地域を学び、地域課題に気づき、課題解決に向けて協力しながら社会教育活動を実践することにつながります。

地域の実情を踏まえた公民館運営 平内町藤沢公民館の取組



平内町藤沢地区では、県の「人口減少克服プロジェクト」事業のモデル地区として指定され、藤沢公民館を拠点として、他団体と連携しながら、地域課題解決に向けた取組を実践してきました。

ここでは、実際の公民館運営に必要なポイントに絞って、活動を紹介します。

◆ポイント1 現状と住民ニーズの把握

・全戸配布によるアンケート調査の実施（86戸）
今後の居留意向や、子どもの居住地域などについて調査。

・ヒアリング調査の実施
生活環境、産業や雇用、祭りや伝統芸能、交流の状況、子どもの育成環境などについて聞き取り調査を実施。



ヒアリングの様子

◆ポイント2 将来ビジョンの策定と合意形成の手法

・まち歩きの実施

地域の良いところを再発見し、空き家や農地の状況などを確認。

・先進地視察の実施

秋田県大館市山田集落会、五城目町清流の会、新郷村川代地区との交流。

・新年を語る会の実施

アンケート結果（地域課題の洗い出し）の中間報告、世代間交流、「やったらいい活動アイデアカード」の張り出し。

・小冊子の制作

アイデアカードを整理し、今後5年間を見通した行動目標を公表。

◆ポイント3 地域との連携と他団体との連携の在り方

町内会や子ども会、婦人会や老人クラブ、消防団など地元に着目した団体のほか、大学や行政、近隣の町内会等、積極的に多くの団体や機関と連携。

◆ポイント4 活動方針の策定

・活動できる人たちが無理のないことをする

・身近なものを活用し、それをお小遣いに変える

・多世代の人々が集まり、交流する機会を増やす

・地域にゆかりのある地区外の人との交流機会を増やし、つながりを強くする

◆ポイント5 公民館を拠点とした活動の実際

・先進地リーダーによる講演会

・健康教室（月1回の開催）

・そば栽培及びそば打ち交流（世代間交流）

・かごづくり教室の実施

・農林業ドクター制度（林業研究所）を活用したハタケシメジ試験栽培

・子ども会主催による野外体験教室の開催

◆まとめ◆

アンケートや聞き取り調査をすることで住民ニーズと課題をしっかりと把握し、地域住民の合意形成につなげています。これにより将来に対するビジョンを明確に地域住民同士が共有したことになります。

そして、実践活動を重ねていくうちに、住民からより具体的な構想が生まれ、今後5年間を見通した活動計画が住民自身の手により策定されています。

これらの取組を通して、住民が地域で主体的に生き生きと活動するようになったそうです。

このように、公民館は住民のやる気を引き出し、住民自らが公民館を拠点として取り組めるようにサポートしていくことが強く求められています。